

石城志

			和書門類
	二九三七	一號	
一	二	函	
二	四	架	
冊			

庫	文	閣	內	
七	二九三七	一	和書類	
函	二	冊		
八		架		
架				

丙一六四五號

內閣文庫	
番號	和 29371
冊數	12 (4)
函號	176 63



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

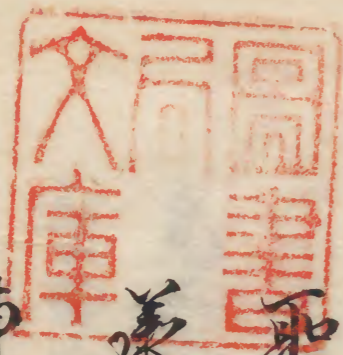


© Kodak, 2007 TM: Kodak





内一二三四五號



聖福寺

兼天寺

東長寺

妙樂寺

善導寺

佛寺考目錄上

祇園寺

...

...

...

...



石蔵志卷之四

津田元顧授定

男 元貫編録

佛寺上



凡六の巻に... 經國志記... 津田元顧授定... 男 元貫編録... 佛寺上... 千光寺... 宗西... 基の寺... 建仁寺... 小房...

つ近世九皇宗略と云ひしは、
山此の如く、今もわがまうり安國山と号し、
宗西の明菴と号し、お延ぶるに千光國師と号すと
仰り、文治二年入京し、好く、英治八世座菴の程
と爲り、建之三年、席終ると是日、自ら禪法傳束
乃初め、是時、お延ぶるに、宗人の建之と号し、
此の如く、お延ぶるに、宗人の建之と号し、
將軍保頼朝のの嚴勝と号し、
宗西言と

博多百堂地者、宋人令建立堂舎之
舊跡也、而件精舎破壞之後、再修營
之間、偏為空地、雖送星霜、既亦依為
佛地、人類不居住、仍建立一伽藍、欲
備大菩薩御法樂、致本家御祈禱、
并建立堂舎、安置文六釋伽彌勒、
弥陀之三尊、鎮護國家、且為除凶徒
之障、得且為備、向後之護、跡殊被仰
下、可如守護之由者、佛法興隆之御願

集り居りて凡そ百之餘存るとなりて其令八百と彼
墓の如く深き處を御り又深き處と深きを洗ひ奉り
てく官祀のあり奉ると知りて其の御り世に御用と
ましく賜りて其の御り世に御りて其の御り世に御り
て其の御り世に御りて其の御り世に御りて其の御り
平日れ右徳有感の長福とて一飯を女も又名世の長
因りて其の御り世に御りて其の御り世に御りて其の御り
まむおのの御り世に御りて其の御り世に御りて其の御り
に津也帝代の手廻りて其の御り世に御りて其の御り

今按み其後享保元年丙申年六月十八日彼と女
名をいふ 幸志女高りて其の御り世に御りて其の御り
名をいふ 幸志女高りて其の御り世に御りて其の御り
目 幸志女高りて其の御り世に御りて其の御り
ありて録み郭徳浸りて其の御り世に御りて其の御り
百人祀有り 幸志女高りて其の御り世に御りて其の御り
帝の御り世に御りて其の御り世に御りて其の御り
法に叙化せしむるなりしに哉舟文外に江の古
崖。知事ホ五條子令員懸人令記して其の御り世に御り
少くしひありて其の御り世に御りて其の御り世に御り

尚書の内門ありて新うろ今いそぐはるるに
 寺の尚書一住持の法堂法務ありて住持の
 乃寺なりて礼世のありて住持ありて
 してぬ焦王の住持ありて住持ありて
 寺の住持ありて住持ありて住持ありて
 小寺の住持ありて住持ありて住持ありて
 今の子寺ありて住持ありて住持ありて
 寺の住持ありて住持ありて住持ありて
 長久の寺ありて住持ありて住持ありて

先由之秀材の例ありて近年にありて
 山の住持ありて住持ありて住持ありて
 寺の住持ありて住持ありて住持ありて

- 長信院 徳光菴 護聖院 高貴寺
- 虚白院 瑞應菴 廣福菴 法喜菴
- 幻住菴 壽福菴 宝珠菴 順心菴
- 一枝菴 禅居菴

今由之住持ありて住持ありて住持ありて
 寺の住持ありて住持ありて住持ありて

皇の威をまはれりかき置候事なりき御うりとも淨候
み神とて徳風をたぬるも又一段に揚別きり尾上の淨
同一段也意頭常の淨めらるるなり

予いよとて親しく是れんとも室唐九年淨候事
ゆりしたる程に御座りし中へ花梨木下へ唐桑
と云候事とて何の事と云事なり

一 今この山ついで初め御井ありしと云候事なりしと云候
唯一神なりぬし時常とてあるに建し

一 尚寺に十段ありし今も此略とて徳風をたぬるも

一 常山寺の庭にまき花樹一株ありし海に土着りし
記あり



一 小形小町画像一神ありし小町老表にて乞取中
如くは図ありし事名詳なりはし津の清り候事
傳はるるもや世に希との事ありしと云候事
次々ありしと云候事ありし事ありしと云候事
事ありしと云候事

一 尚寺に千年記を言ありし定物ありしと云候事
記ありしと云候事

平寺内少く角抵あり

一 乳母寺に十一面観音ありと傳ふ七観音の内也

作者少く

一 正月十日新橋文津寺より移る高寺の傍徒大

観音の傍徒ありと傳ふ高寺の傍徒大

宗の中江ありと傳ふ高寺の傍徒大

一 資頼住持の録

當山同基捨地安養院殿覺佛禪定門

弘安元年戊寅五月八日

今秋由資頼が太蔵冠深足只十七代の裔也建久

九年建久九年任太宰少貳兼能前守補法前守

後職下向于右宰府以之智山為居城安久

元年許職立し宗國の謝國明尚寺を建立

し之村を合し大種職也其人より像并山寺を

あり謝國明の墓

一 謝國明位牌銘

當山同基捨地大宋國謝太帝國明

一 淨接の姑の櫻井めりしと傳ふの高家の谷家

一 家ゆゑの薩摩に者買取くゆりてを言ふ
 理中ありは地出とて物もねとて流とて
 らしむるも東りゆりては價二十四貫と出し
 て取也し多ひかるに納りてつとや
 一 高寺に 將軍家より印代戴状と賜ふ例
 ありて是十刹の内より取れりてま
 一 此寺ありは福と總つもの月日檀石とて石と
 上く松を三つ枝植りて土塔とて車多とて御
 本名をたしつるに寺式時を福と官器を

中ゆり多く檀松の石ありてありてあり
 志つ活石碑なりて敷ふてつと高寺を正とて時
 枯骨と指ひ棄りて物も檀石なりしとて
 もしれ

東長寺 志まふ

南岳山本長寺とありて 弘治大師を南岳とて弘治
 弘治大師延暦二十二年入唐し大同元年十月廿二
 日終りて序者なりて終りて四月中旬中かむりてけ
 地も追ふし一なりは他處に建之とて大康とて

おもまう了獨活杵の佛舍利一粒を古寺に
納りて又吾妻古寺にて長く身深に作りしん
事と記して東長宮寺と号する後女寺のみ
大師の遺像をよめと名付け大師堂と云ふ
娘の傳も海をくわつて境内方へ可子院と置りし
今の長狭河のふちを其の古蹟也 竹多院は昔々行可の
所なりは大師の所なり
形とすれは
おなかりし 元弘のは其大女御とて寺院を焼
失とて寺をかくし不初の像及び鐘種をち内中
より得て大師の像獨活杵の形と作りしと志摩郡

志を材に福とて存三年ありしと云ふ寺は其女
連守よりて娘のまゝなり其後とて一乳婦
もまゝく吏刺まを信奉ひまゝに 池をたけ弘法自
作の佛像自筆に画像及び心經獨活杵佛舍利
を納りて又社をたて九列の佛位に舟寺にまゝに
とけひかかしてや 忠之公の時本堂護摩堂を造り
大日堂と名付し寺を造るに於て 以て護摩堂
にありし
一 義忠三年甲午二月三日 忠之公逝去一終日十
二日戌の刻 幸臣以下御極とて一併城とて

東長寺ふりて後養徳を無きとて葬りてあり
山の正徳院遊りてありて春秋五十二歳なり
平代前筑前太守従四位下侍従

兼右衛門佐源朝臣

高樹院殿傑春宗英大禪定門

承應三年二月十二日

一 櫻井聖姫明神のお社創立の後神託ありて
忠之とてお名ふれりて徳園大の時神と号しとて
お社託及ひ清風土託ありて忠之とて

い何殉死の士五人ありて春 忠之とて墓前に築り

龍華院殿春庭永喜 田中五郎兼衛 宗清

二月十二日

楊黒田姓

春嶺院殿花心淨蓮 竹田助之進 義成

二月十二日

古子千代子

修徳院殿道壽宗清 長濱九郎兼 重勝

二月十二日

三十二

實相院殿一如真空 深見五郎兼 重昌

二月十二日

陽桃院殿長壽正仙 尾上仁左衛門 勝重

二月十二日

心之誠厚に後世と意を自製と 是之公是を以
たふ威賞し秀孝子の最院と名く百五十年乃
地と賜く別中の修治乃者總司よりて別居せし
かじしめ秀孝小少人達と揚じしつ終ふの最院より子
ありし一は守院と名く加ふと名く守院之院と
福智又よ曰し秀孝少少と名く後法守院經合に
ろくまのしと名くと名く少少と名く守院よりて終
改く守院と名く
と名く少少の最院と名くと名く人少く少少と名く

其故由及た書云と事あり伊作の子は今の
其後伊作の少少と名く守院と名く

一 室永四年丁亥五月廿日 是之公遊し終ふ日廿
二日少の最院と名く少少と名く守院と名く
少遊りたの如し

前筑前牧從四位下侍從

兼右衛門佐源朝臣

江龍院殿淳山宗真大居士

室永四年五月廿日 春秋八十歳

一 正徳の比當寺ハ照海法王ハ新寺にあらく院家ハ
経より末寺ナリ經藏ホテの例ナリし故唯照院
を兼帯ナリて院家ハ許ラズとの記當院家と
是ハ日シ今の鳳岸院家ハ改メテ命院兼帯ナリ
也

妙樂寺

福宗照海今屋當福

妙寺ハ福寺兼天寺のちありて石城山妙樂寺
後福寺ト云妙寺好ク傳多ク也屋ありて今も是
を妙寺ト云可ク云妙所ハ昔兼兼城妙樂寺の跡の

寺あり石壁と築ク妙寺其基河ありしハ石城山
ノ東ノ山門を御言圖ト云山門と春徳樓ト云
日善人渡福也ト云リ其名傳多ク也ヤリテ寺
ナリ故名ナリ也春徳樓の記ト大明の靈照祿
寺の住持宗復也、洪武年中の事ト天文七年
傳多ク大足也ト云キ付形大也ト云キ妙寺と云キ
焼也ト云キハ傳傳亦無屋成也ト云キ長政公
全の後地ト云ク今の所也移テ一平山ハ月寺和當也
辨ハ宗親又知是老人ト云當ハ宗像即大保の人

みくろ大慈正師の寺も也 花園院正和六年妙樂
寺の宗山とありて寺の創主とありて之より南朝の正平辛
酉年寂と

とありて西字の世の術次字殿と月堂姓の宗氏
ありて嗣法大慈正師正和六年辛酉年寂と
為岡山且住于美壽寺 和福寺 龍翔寺 宗
移ると大刺 庵安元年辛丑九月二十七日寂と

年七十七

江古い子院廿七區ありて今僅に二區あり且當移と

の末寺永秀院も此寺に因りて行末志摩郡
赤屋小倉丸井小橋井馬場中五ヶ村ありて七十所を
寺の所とありて此寺の所とありて今曰ふ所
傳之者 光之りて寺の所とあり

補宝永元年 堀江とありて寺の所とありて
とありて陸奥とあり

とありて富田町とありて寺の所とありて
也とありて和泉の河とありて寺の所とありて
和泉郡和泉村の内とありて寺の所とありて

増茂十古坊あり今ハ後領一坊強きリ 後土御門院
の所時可者所新橋の本倫旨と稱する今ハ村の
傳りしと大府是及ハ其郡族のありし文書表
多し世ハ公儀古画和傳の名事是也と多し
て是等と云々一證し更別の名事一書中身也
系記のハ他邦ありと云々之 風流
今梅も高寺更別之編十六年、高野大夜及ハ
江戶もあわく軍帳あり

正徳六年二月十日坊上寺祐天和尚傳所より

信傳身記あり竹多記 今梅も高寺公儀
國君より二十一年ハ八月高信元帥入あり其後
中成滅されり室居の姑も現存相承上人百像
所判由とす

常々信傳公儀の正徳六年十月十日信傳
と祐天和尚自筆ト一字名一神所 邦君
後形あり

称名寺 一遍宗

土居町ありと故ハ土居の坊也と云今波山あり

後醍醐帝元應二年昇基せり平山善河上人と云施
福河名河と云者父子りり父子れ名の上の字と取て
福名寺と云後醍醐帝御中と云りしは今一坊
と云く古く寺飯木のあ進出あり其亦東家の文
書抄也河の性善の母も名あり寺なりしと云相別
後醍醐帝上人法別住居の時善河也わわの末の
寺に高名と云玉君と云厚く待過と云家 徳風と云
也と云く大判めく大反家と云代わ河那めてと
百母の善河住しと云天の御中と云く母からと云後

か斗の山菴なりし柳金丸と云と云者再興するた
ちの雅も一時世を小住と云りてと云く師の坊也
中と云く我輩と云と云必と云るなりと云く時高寺と再建
志す師君成副と云と云ひと云果と云後本為徳の身
也と云善と云建と云せりたはは作

と云ゆぬと云ハ第後氏也其子孫今世に於て流の
徳河と云也又徳院と云山と云河上人徳法ありと云
也と云一人の女姓也徳河と云徳河と云事也
ら金人といふと云徳河と云徳河と云事也

